

様式— 1

住民意見聴取の取り組みにおける河川管理者の評価（1/3）

（近畿地方整備局）

住民意見聴取の手法	評価できる点	留意点	備 考
■住民説明会 - 河川整備計画（第1稿、第2稿、基礎原案）を作成した段階で、それぞれ住民説明会を開催した。 - 個別のテーマでは、「ダム」について単独開催した。 - 説明会ではまず、河川管理者が説明を行い、その後参加者の質問に答える方法で行った。 - 事務所によっては、説明会の運営を第三者（コーディネーター）が行った。	【共通項目】 ①河川管理者から計画内容の説明を行うことで、整備計画について意見を頂くための基礎知識を住民に知っていただくことができる。 ②河川管理者が住民と直接やりとりできるため、住民から具体的意見を聴取できる。 ③多くの場で説明会・意見交換会を開催することにより、広い地域の多くの住民の方々の様々な意見聴取ができる。 ④参加しても意見を言えなかった方々にも、はがき、FAX、インターネットで意見を頂くようにしたことにより、多くの意見を頂いた。 【個別項目】 ①琵琶湖河川事務所の管内では、コーディネーターによる運営を実施した。これにより、 - 説明、質問の時間管理が適切に行えらるとともに、「住民」対「河川管理者」の構図が緩和された。 - 質問等をコーディネーターが要約することにより、質問の真意が理解でき、回答も的確なものとなる。会場の参加者も理解が高まる。 - 説明会の内容をコーディネーターが総括することにより、参加者の理解度が高まる。 ②ダム単独で開催したことにより、議論の焦点が明らかになり、より多くの意見を頂けた。住民から直接建設促進・反対の意見が出されることにより、住民どおしの理解が深まった。	【共通項目】 ①参加者の性別、年齢に偏りが見られた。 ②関心があるが開催時間等が合わないため、参加できない住民がいた。 ③広い地域で多くの住民の方々を対象に実施したが、全ての住民の意見を聴取するには限界がある。 サイレントマジョリティーの声をどのように聴取するかが課題。 ④説明内容が多岐にわたり、説明分量や専門用語が多いなど、初めて聞く人には十分理解できなかったことが懸念される。 ⑤説明会にかかるコスト軽減を図る必要がある。 【個別項目】 ①ダム単独で開催した場合には、建設促進・反対の主張だけになることが多かった。	

住民意見聴取の手法	評価できる点	留意点	備 考
■住民対話討論会 ・ 討論会で住民どおしが議論することにより、他の方法では得られない深い意見を住民からいただくことを期待して実施した。 ・ 住民意見に賛否両論のある下記のテーマについて主に実施した。 「河川敷の利用と保全の方向性」 「ダムについて」 ・ 討論会の進行、とりまとめは第三者（ファシリテータ）が行った。 ・ 円卓方式等により実施した。河川管理者は討論に参加せず、質問や事実誤認がある場合のみ答える方法をとった。	【共通項目】 ①事業に対しての賛成派、反対派の意見を具体的に聴取することができた。 ②当初は自分だけの意見を言う人も議論の中で相互に新しい発見があり、若干改善された。 ③第三者（ファシリテータ）を入れることにより、議論の透明性を確保できた。 ④住民の河川管理者に対する一定の信頼を得ることができた。 【個別項目】 ①「河川敷の利用と保全の方向性」の討論会では、住民どおしの意見交換の場を設けたことに対し、多くの参加者から評価を頂いた。 ②「天ヶ瀬ダム再開発」の討論会では、第1段階で河川管理者が実施する調査検討項目が確認でき、さらに第2段階で対話をとおして論点が明確になった。 ③「余野川ダム」の検討会では代替案について、一定の理解が得られた。	【共通項目】 ①参加者の性別、年齢、地域に偏りがあった。 ②テーマは、多くの人が理解しやすく、身近な問題として関わり合いのあるものを選ぶ必要がある。 ③双方とも自分の意見に固執することで論点がずれる。参加者が対等に対話できるだけの情報（問題の所在）を事前に理解して頂く必要がある。 ④対話による意見の深化を期待したが、各々の主張のみになりがちであった。 ⑤発言者の関心がある分野に差があった。 ⑥討論会実施にかかる費用（開催案内のための新聞折り込み、電車吊り広告等）について、より効率的な方法の検討が必要。 【個別項目】 ①ダムをテーマにした討論会では賛成、反対の主張だけになり、意見がまとまらない。また、全体的に感情的な意見が多い。 ・ 「大戸川ダム」の討論会では、意見が平行線でまとまらないため、次の開催から住民説明会に変更した。 ・ 「川上ダム」の討論会では、水源地や受益地（治水、利水）の住民が早期の事業推進を主張する一方、ダム反対を主張する人との議論が平行線のままであった。 ・ 「余野川ダム」の討論会では調査検討内容についての意見を期待したが、ダムの是非に関する意見が多かった。	・ テーマを決めずに討論会を実施することは非効率である。仮に、個別テーマで実施する場合、そのテーマの関係者が限定できるなどの条件が整えば、有効な手法となり得る可能性がある。

様式－１

住民意見聴取の取り組みにおける河川管理者の評価（3/3）

（近畿地方整備局）

住民意見聴取の手法	評価できる点	留意点	備 考
■メール、はがき、FAX による方法 （常時から意見聴取を行う）	①提出された意見に対して全て回答することにより、リピーターが増え、様々な意見を聴取できる。 ②様々な窓口を常にかいておくことで、意見提出にかかる制約をできる限り小さくしている。 ③意見・回答を蓄積しＨＰに掲載することで、意見に対する対応状況を示すことができる。 ④住民説明会等と併用して実施することにより、より幅広い意見聴取が可能になると考えられる。 ⑤住民説明会に参加しても意見を言えなかった方々に、はがき、FAX、インターネットで意見を頂くようにしたことにより、多くの意見を頂いた。	①幅広く意見をいただけるが、住民説明会に比べて頂く意見の数が少ない。	